

視覚障害者にやさしい公的トイレに向けた検討の報告

服部 汐莉¹

¹静岡国道事務所 工務課（〒420-0054 静岡市葵区南安倍2-8-1）

現在、社会的障壁の除去について必要かつ合理的な配慮を的確に実施するための環境整備が急務となっている。このような背景から、地域の福祉団体・若者と連携し、視覚障害者にやさしい公的トイレに向けた改善検討を実施した。その結果、今回の改善提案が静岡県内の道の駅等に設置されるまでに至ったので報告する。

キーワード：道の駅、バリアフリー、地域連携、ユニバーサルデザイン

1. はじめに

国土交通省では、平成6年に制定されたハートビル法に基づき、「道の駅」や交通結節点のトイレなどの公共施設のバリアフリー化を推進してきた。そのような中、障害者基本法（昭和45年法律第84号）の基本的理念である「障害者に対する差別の禁止」を具体化するため、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号）が制定された。これにより、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮を的確に実施するための環境整備が急務となっている。特に、公的トイレについては、視覚障害者から「男女の区別ができない」、「便器までの案内もない」などの不自由を感じるとの声があったため、重点的に検討を進めることとした。

本稿では、国土交通省静岡国道事務所が実施した、視覚障害者にやさしい公的トイレに向けた検討を紹介し、バリアフリーに対する理解の促進や取り組みの普及の一助となることを目的とする。

2. 地域の団体・若者と連携した改善検討

静岡国道事務所では、公的トイレの改善検討を実施するにあたり、実際に障害者が感じている不自由を正確に抽出する必要があったことから、静岡地域で障害者の活動支援を行っている「さくらの架け橋会」と連携し、検討を進めることとした。また、視覚障害者の不自由を解

決する方法について、既存のアイディア以外からも求め

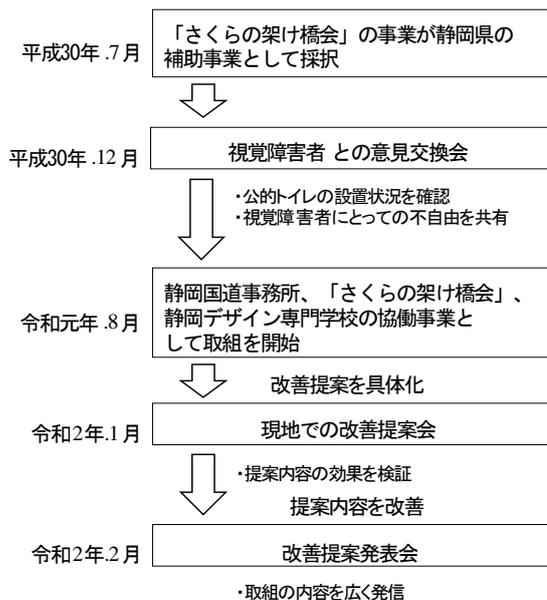


図-1 事業の経緯

ることを目的に、施設や設備のデザインを専攻する静岡デザイン専門学校の学生とも連携することとした。事業の経緯を図-1に示す。主な取り組みは以下の3つである。

① 視覚障害者との意見交換会（平成30年12月26日（水）静岡国道事務所会議室にて実施）

視覚障害者を交えて公的トイレの設置状況を確認し、視覚障害者がトイレを利用する際に課題となるポイントを整理し、共有した。

② 現地での改善提案会（令和2年1月7日（火）静岡駅北

口地下駐車場トイレにて実施)

課題に対する改善案を実際に公的トイレに設置し、視覚障害者に体験いただくことで、その効果を検証した。

③改善提案発表会(令和2年2月16日(日)静岡市清水文化会館マリナートにて実施)

「さくらの架け橋会」主催の公的トイレに対する改善提案発表会を開催し、視覚障害者にやさしい公的トイレの普及に向けた情報発信を実施した。

3. 公的トイレ改善に向けた取り組み内容

本項では、上述した公的トイレ改善に向けた取り組みの詳細について述べる。

(1) 視覚障害者との意見交換会

まずは、視覚障害者がトイレを利用する際に課題となるポイントを整理するため、視覚障害者を交えて公的トイレの現地確認を実施した。その結果、トイレ入り口において男女の判別できない、トイレ内に入れても便器までの案内がない、便器も和式・洋式の区別ができないことなどが課題として確認された。視覚障害者との意見交換の様子を図-2に、意見交換結果を表-1に示す。

(2) 現地での改善提案会

現地を確認した課題を踏まえ、公的トイレに対する改善案を検討し、効果検証を実施した。なお、改善案は学生が主体となって検討した内容であり、概要はそれぞれ以下のとおりである。

a) 壁に敷く道プロジェクト

DIY用異素材シールを活用したユニバーサルデザインにより、視覚障害者を案内誘導する提案である。

b) アイ・コンマーク活動プロジェクト

視覚障害者がトイレを利用する際に不自由を感じてい

表-1 視覚障害者との意見交換結果(抜粋)

男子トイレは、一般的に手前が小便器で、奥が大便秘器ではないか。小便器の使用頻度が高いため、手前に設置して欲しい。
水を流す位置が判りづらい。
トイレットペーパーの位置が他のトイレと逆になっている。(洋式便所に座り、右側にトイレットペーパーがある)
入口から便器までの点字誘導ブロックがないため、便器まで辿りつくことが困難である。
入口に音声があると、便所であることを認識できる。(音声案内がないと、トイレがあることすらわからない。)
トイレの前の案内板の下にある点字誘導ブロックが複雑(二重ライン)になっており、点字誘導ブロックを辿って、男子トイレや女子トイレに向かうことができない。
水を流すボタンと非常ボタンとの区別がわかりにくい。
一番手前の小便器・大便秘器までは点字誘導ブロックが欲しい。
手すりに点字があると便利である。
最近のトイレの通路は、曲がりが多く判りづらい。また同じ形態のトイレに出会ったことが無い。トイレ毎に形態は異なっているため、統一化して欲しい。
トイレにも一定のルールがあると判りやすくなると思う。 (例:左手にトイレットペーパー、水洗ボタンを設置する等)



図-2 意見交換会の様子

る内容を明記したステッカーの設置により、健常者による補助を促す提案である。

c) 格安アイデアプロジェクト

日用品を活用した案内誘導等の設置により、視覚障害者がトイレを利用する際の利便性向上を図る提案である。

壁に敷く道プロジェクト

コンセプト
壁に道を敷こう
視覚障がいの方や色盲の方、そして健常者の方まで問わず使用できる。公共機関から一般の家庭まで使えるユニバーサルデザインプロジェクトです。

使い方
直接貼るだけで簡単に敷くことができる。DIY用の異素材シールを使って、金型・コンパスに合わせた長方形のシールを壁の凹凸に合わせて貼ることで、どんな方にも位置がわかりやすくなります。

活用例
壁に敷く道プロジェクトの活用例として、トイレの入り口や便器までの案内、男女の判別、点字誘導などの活用が紹介されています。

コントラストを利用することで視覚の人に気づきやすく
コントラストを利用した案内シールの活用例として、壁に敷く道プロジェクトの活用が紹介されています。

アイ・コンマーク活動プロジェクト

現状の問題点
・視覚障がいの方によって使い方がわからない。
・トイレまでわかりにくい。
・男子、女子トイレが判別できず混雑して入ってしまう。
・トイレ内で迷う。
・トイレ内に点字誘導ブロックがない。

改善方法
・水洗ボタンの統一化
・トイレまでわかりやすい誘導
・音声案内の導入
・トイレ内に点字誘導ブロック設置
→コストがかかる

私たちの提案
健常者にアクションを起こさせるようなデザイン制作。
私たちが思い描くのが、視覚障がいの方のユニバーサルデザインに貢献し、この世界に役立つ提案です。視覚障がいの方の不便を解消し、誰もが安心して利用できるトイレの実現を目指します。そのためには、視覚障がいの方の意見を取り入れ、共有し、共有の課題を解決する必要があります。そして、その課題の解決に貢献できるような提案を、多くの方に共有し、共有の課題を解決する必要があります。

デザイン案
トイレ内・外のステッカー
POINT
・視覚障がいの方の視覚特性に合わせたデザイン制作。
・視覚障がいの方の視覚特性に合わせたデザイン制作。
・視覚障がいの方の視覚特性に合わせたデザイン制作。

格安アイデアプロジェクト

～自宅のトイレでも簡単アイデア～

現状
・トイレの案内がわかりにくい。
・トイレの案内がわかりにくい。
・トイレの案内がわかりにくい。

問題点
・トイレの案内がわかりにくい。
・トイレの案内がわかりにくい。
・トイレの案内がわかりにくい。

提案
ピクトグラムの設置
1. 男女の判別を容易にする
2. 入り手誘導
3. 点字誘導

解決する課題点
・トイレの案内がわかりにくい。
・トイレの案内がわかりにくい。
・トイレの案内がわかりにくい。

値段: 110円

図-3 提案概要

改善提案会では、上記の提案内容を実際に公的トイレに設置し、その効果を視覚障害者に体験・検証いただいた。その結果、「案内誘導の設置位置や高さによっては案内がわかりにくい」、「案内はトイレ個室や小便器まで連続した案内としてほしい」、「説明がなければ案内誘導であることがわからなかったため、案内誘導の規格化・統一化など、案内誘導であることを認知できるようにしていただきたい」などの意見をいただいた。改善提案会の様子を図-4、改善提案に対する意見を図-5に示す。



図-4 現地改善提案会の様子

(3) 改善提案発表会

視覚障害者にやさしい公的トイレの普及に向けた情報を広く発信するため、静岡市清水文化会館マリナートにおいて公的トイレに対する改善提案発表会を実施した。発表会では、学生による提案内容の発表、提案概要パネルおよび仮設トイレを活用した体験ブースの設置、静岡国道事務所が事務所内のトイレに設置している立体ピクトの事例紹介により、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮に対する理解の促進を図った。発表会の様子を図-6、図-7、図-8、図-9に示す。

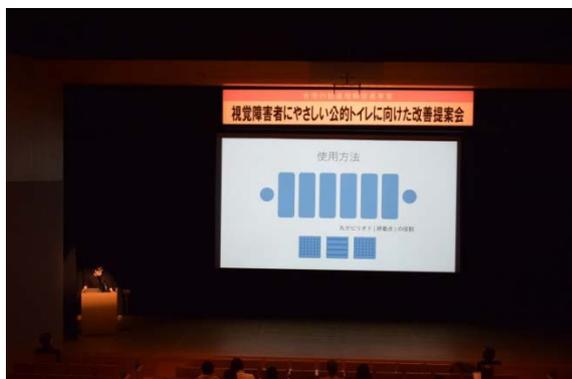


図-6 学生による提案内容の発表

【A班：壁に敷く道プロジェクト】

(1) 概要

- ・DIY用異素材シールを活用した案内誘導

(2) 提案に対する意見

- ・今回の提案では、個室トイレ内の案内誘導であったが、トイレ入り口から案内が連続していないと、個室トイレにたどり着くことが困難となるため、案内誘導はトイレ入り口から連続して設置してほしい
- ・案内誘導の設置高さはよかったと思うが、背が高い人など、人によっては分かりにくい可能性もあるため、あらゆる人に対応した設置方法があるとよい
- ・また、トイレトーパー、洗浄レバー位置がわからなかったのも、それらがわかるような案内誘導としてほしい
- ・今回は説明があったので、シールが案内誘導であることを把握できたが、説明がなければ分からなかったと思う
- ・案内誘導であることを知らせる方法についても考えていただけるとよい

【B班：アイ・コンマーク活動プロジェクト】

(1) 概要

- ・健常者にアクションを起こさせるようなデザイン制作

(2) 提案に対する意見

- ・健常者に視覚障害者の補助を訴える視点はおもしろいと思う
- ・ただし、今回提案のデザインでは、健常者が具体的にどうしたらよいかわからないので、その部分を詰めるとより良いと思う
- ・具体的には、「案内しましょうか」、「何かお困りですか」などの一声をかけていただけると安心する

【C班：格安アイデアプロジェクト】

(1) 概要

- ・発泡スチロール等の市販品を活用した利便性向上方法の提案

(2) 提案に対する意見

- ・今回の提案では、案内誘導のピクトを一箇所にまとめて設置していたが、ピクトをまとめられてしまうと、かえってわかりにくくなるため、ピクト設置位置を分けるなど、ピクトでの案内はシンプルにしてほしい
- ・個室トイレ内にカケラレール（白杖立てかけ用器具）を取り付けてくれたが、カケラレールの取付位置がわからなかったのも、A班の提案のような案内があるとよい
- ・ただし、トイレトーパー、洗浄レバー、カケラレールと案内すべきものが多くなると、わかりにくくなるため、カケラレールは個室トイレの扉付近に設置するなどの設置箇所のルール化が望ましい

図-5 改善提案に対する意見



図-7 改善提案体験ブース



図-8 静岡国道事務所の取組紹介



図-9 国土交通省道路局長による感謝状の贈呈

また、発表会では参加者に対し、アンケート調査を実施しており、参加者からは「提案内容はいずれも低コストで実現性の高いものなので、早期の導入を期待する」、「ユニバーサルデザインは広く展開されることが重要なので、主要メーカーに働きかけ、共通のデザインを作成するなど、展開のための仕組みづくりがあるとよい」などの意見をいただいた。アンケート調査結果を図-10に示す。

4. おわりに

今後の取組としては、今回検討した改善提案について、耐久性やデザインの見直し等を検討したうえで、静岡県内の道の駅等における公的トイレへの試験的な設置を実施する。その後、その効果を検証し、課題等を整理することで、誰もが使いやすい公的トイレの普及を資する。一方で、新型コロナウイルス感染予防が喫緊の課題となる中で、今回改善提案のような接触型の案内誘導は衛生面で不安が残る。このため、抗菌作用のある素材の使用など衛生面への配慮についても検討を進めていくものとする。

本稿では、静岡国道事務所が実施した視覚障害者にやさしい公的トイレに向けた改善提案検討を紹介した。今回の取り組みは地元の福祉団体および学生とともに検討を進めた事例であり、事業の進め方および事業内容の参考となることを期待する。また、今回の取り組みが公共施設に対するバリアフリーのあり方を見直すきっかけとなり、公共施設の設置・改修時における新たな基準・文化の醸成につながると幸いである。

- | |
|---|
| <p>1. 提案内容に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どれもすぐ実用出来そうなものばかりでよかった。 ・どの提案も低コストで導入できる点が非常によかった。 <p>2. 今後の展開に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのアイデアが少しずつでも広がっていけばよいと感じた。 ・プレゼンは3件とも具体的でかつ、即利用が可能に考えられていた。具体的なステージに進むことを期待する。 ・アットホームな雰囲気の中、プレゼンも分かりやすく、とてもよい提案だった。是非実現を。 ・是非、全国に広がる事を期待します。 ・ユニバーサルデザインは広く広まる事が大切なので、そのための仕掛けも考えていく必要がある。 ・トイレの水を流すレバーがユニバーサルデザインではないので、主要メーカーに働きかけ共通デザインをつくってはどうか。それを各家庭に導入すれば全てのトイレのデザインの共通化、ひいては全世界の共通化となるのではないかと。 <p>3. 提案会に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者にかかわるボランティアに参加しているので、この改善提案会にはとても感激した。 ・健常者には気づかない事が沢山あり勉強になった。お手伝いしたい気持ちになった。 ・自らでは気づかないことを、感じさせてくれる提案会だった。 ・また、機会があれば参加したいと思いました。 ・とてもアットホームで楽しい発表会だった。 |
|---|

図-10 発表会参加者によるアンケート結果

謝辞：本検討は、「さくらの架け橋会」、静岡デザイン専門学校の皆様のご協力のもとに推し進めてまいりました。ここに厚くお礼申し上げます。